

1. 基本情報		評価対象年度 ( 30 年度)					
施策コード	122	施策名	生涯学習活動の支援				
将来像	1	安全でうれしいのある暮らしができるまち(「暮らし」の分野)					
まちづくりの基本目標	12	生きがいを持って文化的に生活できるまち					
主担当部	教育部	主担当課	生涯学習スポーツ課	主担当係	生涯学習係		
担当者	石川 智裕	役職	教育部長	内線	321		
関係課	企画課	図書館					

2. 施策の方向	
10年後の姿	生涯学習機会の充実や、特徴を活かした図書館運営などによって、市民の生涯学習に対する意欲が高まっています。また、学んだ市民がその成果を発揮し、新たに指導的立場となって地域で活躍する「学びの循環」が生まれています。
施策の方向性	1 市民ニーズを踏まえた学習活動を支援します 2 「学びの循環」を生かした生涯学習を推進します 3 地域の情報拠点としての図書館サービスの充実に努めます

3. 構成事業の状況		(単位:千円)					
No.	事務事業名	実行計画	施策の方向性	担当課	平成29年度決算	平成30年度決算	平成31年度予算
0102010805	多摩六都科学館組合運営事業		1	企画課	49,176	49,176	53,166
0110050104	文化活動振興事業	対象	1, 2	生涯学習スポーツ課	4,396	2,972	3,062
0110050109	清瀬市コミュニティプラザ等管理事業	対象	1, 2	生涯学習スポーツ課	61,975	91,099	106,661
0110050701	生涯学習センター運営管理事業	対象	1	生涯学習スポーツ課	46,413	59,040	158,368
0110050202	図書館施設維持管理事業		すべて	図書館	13,423	8,784	11,316
0110050204	図書館運営管理事業	対象	3	図書館	47,102	47,597	48,731
0110050205	駅前図書館運営事業	対象	3	図書館	16,055	35,690	16,351
総事業費(施策の合計)					238,540	294,358	397,655

4. まちづくり指標		指標情報							
①	名称	この一年で生涯学習を行う機会をもつことができた人の割合		目標値	—	—	—	16.7	17.9
	説明	単位	%	実績値	14.2	14.2			
	抽出方法	市政世論調査(平成29、令和2、5、8年度実施)							
②	名称	これまで身に付けた知識や技術を自分以外のために活かしている人の割合		目標値	—	—	—	34.5	36.9
	説明	単位	%	実績値	29.4	29.4			
	抽出方法	市政世論調査(平成29、令和2、5、8年度実施)							
③	名称	この一年で図書館に行ったことがある人の割合		目標値	—	—	—	53.0	54.9
	説明	単位	%	実績値	51.4	51.4			
	抽出方法	市政世論調査(平成29、令和2、5、8年度実施)							

5. 評価(平成30年度実績に対する)		評価理由	
評価基準	評価※	評価理由	
投入財源・成果(「3. 構成事業の状況」「4. まちづくり指標」)に対する評価	総合評価(成果、投入財源等を総合的に評価) 維持	生涯学習を行う機会の創出のために、初心者でも参加しやすい市民講座を継続的に実施した。実施に伴い、社会情勢や市民ニーズなどを考慮し、企画や選定を行っており、参加者より高い満足度を得ている。また図書館において、多摩六都科学館との連携強化や、児童利用促進のための事業を行っている。 一方、生涯学習関係の既存団体において、若い世代の取り込みにも苦慮し、世代交代が上手くいかずに団体が消失している。「学びの循環」の促進のためにも、そうした団体のフォローや、講師になるための育成講座の実施、若い世代の活動支援等が必要となる。また図書館においても、多摩六都科学館とのさらなる連携強化により、児童などが積極的に参加できる事業を展開し、足を運んでもらう必要があるため、維持と評価した。	

※順調「10年後の達成に向け」、「構成事業の状況」や「まちづくり指標」の進捗が順調に推移している  
 維持「10年後の達成に向け」、「構成事業の状況」や「まちづくり指標」の進捗に一部課題がある  
 停滞「10年後の達成に向け」、「構成事業の状況」や「まちづくり指標」の進捗が遅れている

6. 施策を取り巻く環境

外部要因	状況	外部要因に対する評価	評価理由
市民ニーズの状況	市政世論調査では、「生涯学習活動を行う上で、市にどのようなことを望みますか」との問いに関して、1位が45.1%で「生涯学習施設の充実」、2位が44.7%で「音楽、美術、芸能、映画等の鑑賞機会の充実」、3位が27.5%で「団体、サークル活動に対する支援、育成」が挙げられた。	3. 施策の必要性を高める	一部講座によっては毎回数を超える応募があり、市民の学習意欲に対応すべく継続の必要性があると判断した。また、「学びの循環」を重要施策とし位置付けており、単に講座を増やすだけでなく、「学んだ市民」が「学びたい市民」に教えるという循環を提供できるように、団体支援として情報誌「まなびすと」の発行や学習できる環境の提供が必要である。
将来人口の推移	少子高齢化が進行する。	3. 施策の必要性を高める	人生100年時代を想定し、元気高齢者に対する生涯学習機会の提供が重要と考える。そのため、高齢期の生きがいの提供や高齢者が地域社会の主役として活躍できる環境整備が求められる。
他自治体との比較	市の人口を考慮した場合、図書館数と所蔵資料数は多摩26市で比較しても恵まれた状況となっている。	1. 施策遂行に役立つ・有利	市民が多くの情報を得るために幅広いサービスを提供できる。
民間企業・NPO・市民の動向	図書館のハンディキャップサービスやブックス・スタート事業を担う、ボランティアがいる。	3. 施策の必要性を高める	今後、学びの循環を実践するためにも、それぞれのボランティアグループから、指導者としての役割を担える人材を育成する必要がある。
法・制度改正の動向	平成31年1月1日施行で著作権法の一部が改正され、現在視覚障害者等が対象となっている規定を見直し、肢体不自由等で書籍を持っていない者も対象となる。	3. 施策の必要性を高める	図書館で視覚障害者を中心に実施しているハンディキャップサービスについて、対象を更に拡大する必要がある。
技術革新の動向	PC及び、タブレット端末、スマートフォン等、Webを介して情報を得られる環境が社会に浸透してきた。	1. 施策遂行に役立つ・有利 3. 施策の必要性を高める	昨今の生涯学習の現場でもICTの進出は目覚ましく、講師だけでなく、学習する側の活動中にもPC、スマートフォン等の機器を活用しているため、多様な学習講座の展開が期待できる。
その他	多摩六都科学館を近隣市と共同運営している。	1. 施策遂行に役立つ・有利	市だけでは提供できない生涯学習の場を提供できる。

7. 施策を進める上での課題

施策を進める上での課題	「学びの循環」が実現されるような取り組みや、民間企業で実施されている類似講座の改廃が必要となる。また社会情勢の変化を考慮するとともに、自治体の使命を鑑みながら、計画的な事業展開を図っていく必要がある。			
① 関連する事務事業名	文化活動振興事業	清瀬市コミュニティプラザ等管理事業	生涯学習センター運営管理事業	
現在の取組状況	シニアカレッジ、シニアヨガ等の高齢者向け講座と、全世代対象の市民講座を年130回実施している。清瀬市の生涯学習団体情報誌「まなびすと」は紙ベースで毎年750部発行している。また、生涯学習基本方針を社会教育委員の会議に諮問した。			
令和2年度以降の取組	生涯学習活動方針の推進、人材育成講座、サークル・団体立ち上げ方講座等の「学びの循環」を円滑に推進するための講座を実施するとともに、シニアカレッジ等の既存講座の充実をしていく。また、まなびすとのホームページ掲載による幅広い世代への周知を強化していく。オリンピック気運醸成の為の講座を検討していく。			
施策を進める上での課題	多摩六都科学館を施策推進の資源として捉え、これまで以上に有効活用し、施策効果を高めることにつながる具体的な取り組みを企画し実施する必要がある。			
② 関連する事務事業名	生涯学習関係事業	学校教育関係事業	青少年健全育成関係事業	
現在の取組状況	多摩六都科学館として、圏域市民向けのイベントの実施、アウトリーチ活動など市民の利用促進を図っているが、清瀬市は他の市に比べ活用が進んでいない。			
令和2年度以降の取組	科学館のアウトリーチ活動を学校教育及び、生涯学習、児童館事業などに活用する。			
施策を進める上での課題	子供たちの活字離れが進む中、元町こども図書館以外の図書館においても児童の利用を促進する。			
③ 関連する事務事業名	図書館運営管理事業			
現在の取組状況	駅前図書館を除く5館で図書館子ども会を年3回、合わせて15回実施しており、平成31年度については多摩六都科学館と連携しての実施も検討している。			
令和2年度以降の取組	平成30年度に子ども会の参加者を対象にしたアンケートでは、参加者のほとんどが内容に満足したと回答している。今後、多摩六都科学館等との連携により、会の充実を図ると共に、一層のPRに努め参加者の拡大を図る。			